

ふれあい

平成24年5月 第311号
大代地区コミュニティ推進協議会
(広 報 部)
事務局：大代地区公民館 (生涯学習課分室)
TEL022-368-1141 (内線510)

掲 載 目 次

- 平成24年度総会を終えて・・・・・・・・・・ 1
- あの日から一年そしてこれから・・・・・・ 1
- 日食が見られるヨ！・・・・・・・・・・ 2
- 南区の復興を願って・・・・・・・・・・ 3
- 詐欺に注意・・・・・・・・・・ 3
- 宿泊行事に向けて活動中・・・・・・・・・・ 3
- 大代の歩み (四十六)・・・・・・・・・・ 4
- ふれあい俳句・・・・・・・・・・ 4

大代地区の世帯数 (平成24年3月31日現在)：東区338、中区311、西区273、北区116、南区574、合計1,612



総会の開始にあたり、会長から、昨年度実施したこみプロ学習会の成果、これからの地域活動の考えなどについて説明がありました。

今年度は、25年4月からの公民館の外部化に向けて、管理運営に関する事業を着実に進め、地域への復興支援、コミュニティ活動の更なる充実、発展を目指す事業に取り組んで参りたいと思っております。今後とも皆様のご理解とご協力をお願い致します。

平成24年度総会を終えて

大代地区コミュニティ推進協議会
会長 熱海 五郎

4月21日(土)平成24年度大代地区コミュニティ推進協議会の定期総会を大代東集会所において開催しました。参加者は、顧問含む33名でした。議題については、平成23年度の事業報告、決算報告、平成24年度事業計画(案)、予算(案)について事務局から説明があり、異議なしということで承認を頂きました。またその他の事項で、公民館の開館時期について館長から説明があり、7月までに改修工事が完了し、8月から利用できるということでした。

あの日から一年そしてこれから

大代西区町内会
会長 伊藤 要

四月の穀雨を過ぎ、ようやく春を迎えたようだ。未曾有の東日本大震災から一年が過ぎ、復旧は少し進んだようだが、復旧・復興はこれからである。被災地が鎮魂の祈りに包まれた去る3月11日、県内で大きな津波被害を受けた沿岸部の15市町で追悼式が開かれた。多賀城市の追悼式は、市民会館小ホールで行われ、関係者約600人が参加した。祭壇には市内の死者、行方不明者と同じ189本のろうそくで「3・11」の文字が描かれた。

参列者は地震発生の午後2時46分亡くなった家族や友人らに黙祷(とう)をささげ、祭壇に菊の花をささげて犠牲者の冥福を祈った。

多くの人々が家や仕事、暮らしを奪われた。かけがえない家族、友人らの命が絶たれた。未だ復旧を実感できない厳しい現実も横たわる。瓦礫(がれき)が取り除かれた被災地は、更地と化したままの所が少なくない。家や仕事をどうするか。将来が見通せず、不安を抱いている方々も多い。

震災で被災した、県内自治体のまちづくりを支援する国の復興交付金事業計画について、宮城県と県内22市町は去る3月31日、国に第1次分の交付金を申請した。

申請した22市町のうち、多賀城市は要求額を上回る39億円が認められ、交付率が130%を超え、緊急に必要な事業は概ね認めてもらったようだ。

多賀城市の平成24年度一般会計予算の総額は23年度当初予算を19%上回る237億円で過去最高となる。このうち震災の復旧・復興に47億9163万円を計上し、更に補正として87億4519万円を加算し、総額135億3803万円で復旧・復興事業を行う計画である。

主なる事業として津波を減災すべく、市道八幡通公園線を盛土、植樹する「八幡通り防災公園整備事業」として整備するほか、地盤沈下が顕著な地域の雨水浸水被害軽減宅地かさ上げ支援事業等を計画し、去る4月4日復興交付金第2次申請として5億8600万円を要求した。

多賀城市の復興構想（多重防御による減災を基本）の中に次の整備が記されている。

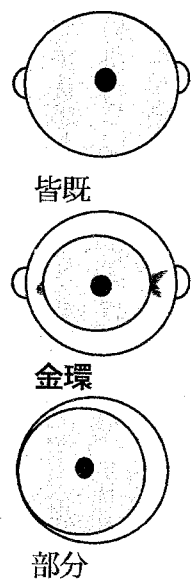
- ① 産業道路の盛土+防災林整備
- ② 仙台港の防潮堤整備
- ③ 貞山運河・砂押川の堤防強化整備
- ④ 多賀城地区緩衝緑地の盛土+防災林整備
- ⑤ 防潮壁の整備

これらの整備工事はすべて、国・宮城県の前算で発注となるので、更なる多くの政治力が求められる。平成23年12月に策定した多賀城市の震災復興計画に掲げられている復興期（平成23年度～平成25年度）の3年間は、最も重要な期間である。時間の経過とともに震災の風化が懸念されるなか、国からの復興交付金が受けやすい時機と考えられる。再生期の平成26～29年度は、政治状況も一変し、国からの復興交付金は非常に難しくなる公算が大になるような気がしてならない。

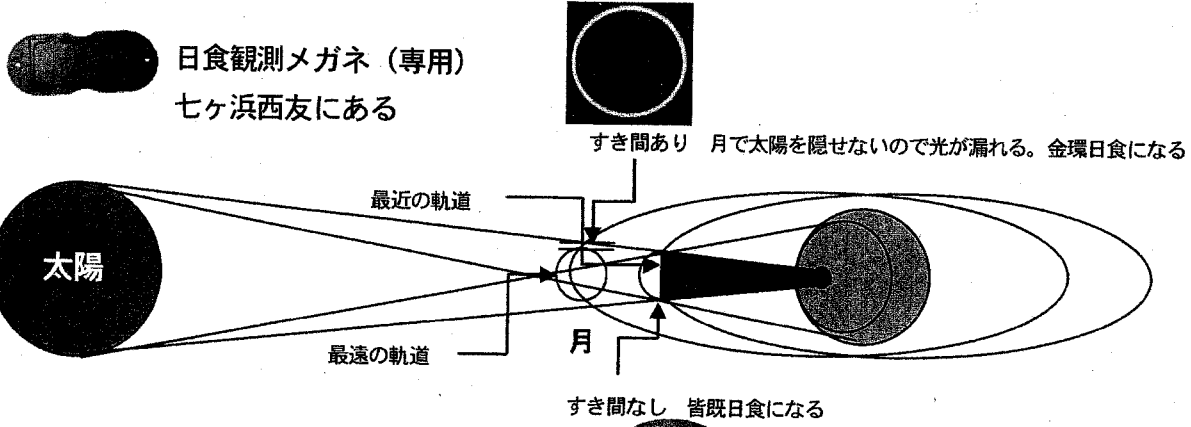
日食が見られるヨ！

大代北区星を観る会会長 加藤 渉

5月21日は日食。多賀城では、やや金環日食に近い程度で観望出来る。「日食」は太陽の手前を月が横切るために、地球に影が出来る。影の大きさで、皆既や部分日食、金環日食となる。月と太陽の見かけの大きさは、さほど変わらない。太陽は地球の大きさの約110倍、月との比較は400倍、どちらも10円硬貨で隠せる。これが見かけの大きさだ。月の大きさは地球の4分の1、月も太陽もやと同じ大きさに見える。月が地球からの離れ具合で、皆既、金環、部分に変わる。純正の鍋の蓋が漏れることなく中身をかくす皆既、金環は、落とし蓋と考えると理解できそう。落とし蓋が中心からずれると部分日食になる。左図を参照



仙台	
食の始め	午前6:23
食の最大	午前7:40
食の終わり	午前9:09



“注意”
 観察するときは、目を痛めたる危険があるので太陽を肉眼で見たり、サングラスやゴーグルでは見ないこと。

南区の復興を願って

大代南区 渡辺 正平

昨年3月、大震災による津波の影響で流失、破損した大代南区内のゴミ集積場は、瓦礫として取り払われ、住民にとっては、一日も早い復旧が望まれていました。そんな折、南区の復興は、先ず自分たちで出来ることからやろうと声が上がリ、環境衛生部長の熊井輝雄さんの掛け声で準備を始め、市の協力も得て改修及び更新設置工事が行われました。その結果3月28日、ローソンの後側と沼崎医院西側、その他2ヶ所の計4ヶ所のゴミ集積場が立派に完成しました。

また、3月29日には南区の役員さん方による南区内横穴古墳（墓群）前の花壇の手入れや清掃作業が行われとても綺麗になりました。本当にありがとうございました。ありがとうございました。浜菊の花は、芽吹きも早く2センチ程の新芽が出揃っているのです、6月中旬頃には白い可憐な花が道行く人達に、暖かな心の癒しを与えてくれるものと思っています。

詐欺に注意!!

大代駐在所長 武田 一貴

最近詐欺の被害に遭って、現金をだまし取られるケースが多発しています。大代地区も例外でなく、これまでに3件の相談を頂いています。メールによるものが2件、はがきが来たというのが1件です。そこで、今回相談を受けたケース『架空請求詐欺』

の窓口について紹介したいと思います。

この詐欺行為は、郵便、インターネット等を利用して、不特定多数の者に対し、有料サイトの料金が未払いであるなど架空の事実を口実に、料金請求の文書等を送付し、現金を預貯金口座に振り込ませてだまし取るというものです。この種の振り込め詐欺は、架空の法律事務所等からの文書「民事訴訟最終通告書」を送付された人や携帯電話等でサイト料金未納などのメールを受け、電話等で問い合わせた人が被害に遭っています。

振り込め詐欺の被害に遭わないための5箇条

- ①「私だけは大丈夫」という思い込みを捨てる。
- ②相手の話を鵜呑みにしない。
- ③まず、落ち着く。
- ④一人ですぐに振り込まない。
- ⑤振り込む前に、必ず家族や消費者センター、警察署等に相談する。

その他、「賞金○億円の権利があなたに!」という外国からの封書が大代の方に届いたということを知りました。これも歴とした詐欺ですので騙されないよう注意して下さい。



警察相談専用ダイヤル（24時間受付）#9110
振り込め詐欺情報専用メール

furikome110@mail.police.pref.miyagi.jp

宿泊行事に向けて活動中

多賀城市立東豊中学校
教頭 佐々木 晃

昨年度とは異なり、例年通りの4月9日（月）に始業式と入学式を行い、平成24年度が始まりました。今年度の生徒数は、一学年が90名、二学年が76名、三学年が119名の計285名です。また学級数は、普通学級が9学級、特別支援学級が4学級の計13学級です。

さて、昨年度は、震災で沈んだ気持ちになっていた生徒達の元気を取り戻すために、5月14日（土）に「ふれあい運動会」を実施し、むしろ生徒たちの明るい笑顔から、保護者や教職員の方が元気をもらいました。今年度は、9月1日（土）に「体育祭」と名称を変えて実施する予定ですので、多くの地域の皆様にもご覧いただければと思っています。

このように、運動会（体育祭）の開催時期を9月に変更しましたので、今は5月16日（水）に出発する宿泊行事に向けて、各学年とも集中して準備活動に励んでいるところです。各学年の宿泊行事の内容は、一学年が、国立花山青少年自然の家での野外活動や自然体験を一泊二日の日程で行います。また二学年は、大崎市田尻の民家に宿泊しての農業体験を二泊三日の日程で行います。そして三学年は、東京・神奈川方面への修学旅行を二泊三日の日程で行います。これらの宿泊行事は、中学生にとって、準備段階から心がわくわくするもので、準備活動に励む生徒達の顔には、笑顔があふれています。特に三

学年は、プログラムに沿った活動ばかりでなく、生徒自身が訪問先や移動方法について計画する自主研鑽なども実施しますので、期待で胸を膨らませながら、詳細な計画の最終確認をしているところです。このように、宿泊行事に向けて活動中の東豊中生ですが、健全な成長には地域の皆様の見守りが必要です。今後とも温かいお声かけをお願い致します。

大代の歩み (四十六)

大代南区 渡邊 巖

多賀城地域の農村の変化を見ると、明治二〇年代以降に小作人が急増している。その大きな理由は災害による農民の疲弊である。その辺の様子を明治末期にかけて見てみよう。

当時の農地の主な作物である米麦以外では、主食にも用いられた粟(あわ)・蕎麦(そば)は勿論、唐黍(とうきび)・甘薯(さつまいも)・馬鈴薯(ばれいしょ)の作付けが多かったのは、主食として消費するだけでなく商品として販売する目的もあったようです。

野菜については耕地面積・収穫高・売上高とも第一位は大根である。これは漬物(たくあんその他)としての販売目的だけでなく、糧飯(かてめし)の材料としても良く使われたからである。他に畑地の作物として人参・牛蒡(ごぼう)・茄子(なす)・胡瓜(きゅうり)・里芋・葱(ねぎ)・漬け菜(白菜など)その他、多種類の菜類も多く栽培された貴重な現金収入となった。多賀城の土地は地形・地質の関

係上、水田米策が最適で果樹園は少ないが、その中でも梅・桃・梨・柿などで若干の生産を上げていたが、農家の家計収入を左右する程ではなかった。また、村内に大きな川が無く漁港も持てない多賀城では、汽水・淡水を含めても水産業と呼べる漁獲高を得ることは出来ない。家畜の飼育では、明治中期の多賀城で馬は農耕用と荷物運搬を含めて約三六〇頭だったが、明治以来の大陸戦線に軍馬として徴発される等で減少の一途を辿った。

多賀城の工業は他産業のかげに隠れていたが、その製品としては製茶・製藍・木製品・金属製品・藁工品・瓦・土管・竹細工など、生産高は少額であり地域にばらつきはあるが、品種は多様になっている。こうして見ると多賀城は主産業以外の諸産業も幅広く取り入れて、時代とともに確実に成長して来たが、度重なる自然災害の為にその発展は順調ではなかった。

続く

ふれあい俳句

大代西区 藤田 遊子

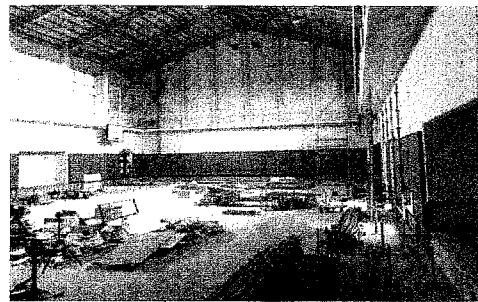
おもはくの 橋に待ち居る 桃の花

放射能 避けて五月の 鯉のぼり

ふきのとう 踏みつぶしてや かくれんぼ

お知らせ

公民館の改修工事も、日に日に形作られてきており、完成が待ち遠しく感じられますが、工期日程が少しずつ後にずれ込んできております。今のところ、7月末工事完了、8月には開館できる見込みです。写真の他、玄関、2階会議室、1階和室も着実に工事が進められています。4月23日現在の体育室及び事務室の進捗状況は、左図のとおりです。



壁の補修が完了し、次は床の補修工事です。



事務室の壁が張られ、次は内部の工事です。

編集後記

桜もようやく咲き始め、春の陽気が感じられるようになりました。時々入学したばかりの一年生達を見かけますが、交通事故が心配になりますね。声をかけ合うのも事故防止に繋がります。地域の和で子供達を事故から守りましょう。私達のふれあいも、1枚1枚に明るい話題を載せて皆様方にお届けしていきたいと思っております。ご理解とご協力をお願い致します。

(編集委員 渡邊)